



フィグ・ヤーパン通信

第28号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.28

発行日 2006年10月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新刊書『瞑想入門』のご案内

たいへん長らくお待たせしました。新刊『瞑想入門』が10月下旬に水瓶座時代出版から出版される運びとなりました。本書は2名の翻訳者による翻訳・校正に加え、ボランティアの皆様による校正協力を経て、数回にわたる内部校正を行ってきました。ところが昨年、FIGUスイスにおいてドイツ語原文の校正が再度行われ、それに伴い日本語版の出版も延期せざるを得なくなりました。これに伴い、著者ビリーによって一部コードが改新され、またビリーとFIGUスイス基幹会員によって入念にドイツ語原文の校正が行われました。日本語版の出版にあたり、ビリーとFIGUスイスの方々のご尽力に感謝します。さらに、読者の方々からの数多くの励ましの言葉、作業協力、経済的なご支援により出版に至ることができましたことを、心からお礼申し上げます。

『瞑想入門』はドイツ語原文と日本語訳文の対訳で構成され、500ページを超える大作になりました。ここでは本書の一部を抜粋して紹介いたします。

——— この本の著者、エドゥアルト・アルベルト・マイヤー、通称「ビリー」は1937年2月3日、中部ヨーロッパ標準時午前11時00分、その両親の第二子としてビューラッハ村に生まれた。父親は素朴な靴職人、母親は主婦であった。

それは必ずしも周囲の期待に沿うようなものではなかったとはいえ、すでに幼年時代、学校時代から、彼の特殊性は周囲からみれば明らかに際立ってい



瞑想入門
(水瓶座時代出版)
装丁：A5判 ハードカバー
頁数：530 ページ
定価：3200 円（税込み）
発行：10月1日
重量：未定

た。つまり、早くも5歳にして彼は、父親と一緒に、1942年6月2日の朝9時に初めて宇宙船を目撃したのだ。父親はこの風変わりな飛行機を「ヒトラーの最新秘密兵器」だと説明したが、幼いエドゥアルトは違った見方をしていた。（「著者について」より）——— 本書は読者になんらかを要求するのではなく、真に霊の進化に関心を持つすべての人に真理と教えを認識や知識として自らが思考、理性、悟性を通じて消化するための手助けとなるであろう。また本書を正しく誠実に学ぶことから得た認識と進歩は、人間を束縛から解放する助けとなり、すべての人間は自分の思考と行動に対して総括的な責任を負うべき独立した個人であり、なんらかの上位の力に転嫁することはできないことを悟らせる助けとなる

であろう。宇宙のすべての人間はその霊を通じて創造と共に生き、創造の中で生きている。人間がこの事実を意識し、目指すほど進化は速やかになるであろう。（「まえがき」より）

—— 人間は宇宙の一部として、宇宙の不変の法則と存在の目的のもとに、宇宙の中で生きている。そしてこの宇宙の法則と存在の目的を認識し理解する者は、人生の意義をも認識および理解し、こうして得た認識を直ちに自分の存在と関連させるよう常に努力する。それによって人間は自分自身を認識し、その自制力を強化し、それによって周囲に良い影響を及ぼす。人間はこのようにして得た知識によってあらゆる不安や苦悩や困窮から解放され、また周囲にもその知識を広め伝える。（「人生の意義」より）

—— 『瞑想入門』は人間が独学で瞑想を学ぶことを可能にするものである。しかし瞑想の修業は非常に厳しいものであり、もし人間が、霊からの至上の贈り物にあずかりたいと思うならば、大きな傾注と学習意欲と持久力が必要だ。速成講習、短期講習あるいは集中講習はいかにも気持ちこそそそるが、それは実際は極めて虚偽の危険なものであり、何よりも報われることがないものだ。

瞑想は、単に緊張を緩和させるだけのものではない。医者はそのために瞑想を推奨するが、それにとどまらず、とりわけ人間の自己鍛錬や霊の訓練、心の安らぎや均衡の認識と修得、そして実際に人生を克服するのに役立つ。

本書を綿密に注意して読み、述べられた知識に従って行動すれば、これらの知識やその他多くの認識が得られるであろう。（「本書の目的」より）

—— いずれにせよ瞑想にとって最も重要な前提条件は集中であり、必ずそれを修得しなければならない。集中はまず第一に瞑想を妨げるものに対する防御として必要である。例えば、想念の逸脱、とりわけ異想念の進入、眠気、健忘症、神経的・心理的ストレス、落ち着きのなさ、短気などがこれに相当する。集中することを修得し、それを通じて瞑想を妨げるこれらの要素を排除しなければならない。実際の瞑想に取り組むのはその後である。これが瞑想を学び、実行するにあたってまず最初に必要な条件である。（「序論」より）

—— 責任を自覚するすべての人間は、地球人類

の行く末に関する多くのテーマについて憂慮するのが普通だ。その中で最も重要であり、常に最新のテーマとして熟考され思索されるのは、平和である。だが地球上の平和や戦争には、一個の人間は影響を及ぼし得ず、なんらかの権力がそれを決定しているようだ。権力者が地球人類を自己破壊の淵に追いやるのを誰が阻止できるというのか。

すべての人間は同じ創造の法則に組み込まれ、創造によって与えられた同じ権利を持つという意識は、言葉で言い表されるものではない。それは、内的平和と内的認識からのみ生まれ育ったものだからだ。平和への努力はどのようなものであっても一人一人の人間がなすべきことだが、個々の人間、そして人類全体が、平和への努力を支持および助成することは可能だ。それには、約 3381 人の地球の人間（1989 年 11 月現在の数字）と 350 億人の宇宙の人間が共に毎月 6 回行う平和瞑想が役立つ。（「平和瞑想」より）

『瞑想入門』 目次

まえがき

著者について

人生の意義

あなたの内にある創造性

本書の目的

本書の構成

序 論

瞑想の教えの起源

霊

世俗的表現におけるその意味

人格と高度の自己

霊と意識

霊の教えの意義

意志と集中

意 志

集 中

集中の教え

集中についての一言

瞑想の教えの修練

体系と秩序

香

衣服と瞑想	2. 意識の形成
食 物	3. 意識の解放
睡 眠	6) 知識の明確性
刺激物	7) 4つの知識の明確性
瞑想の時間帯	1. 目的についての知識の明確性
姿 勢	2. 適性についての知識の明確性
間違った瞑想の形態	3. 瞑想領域における知識の明確性
「暗示瞑想」	4. 非眩惑の知識の明確性
「陶酔瞑想」	4つの知識の明確性の全体価値
自律訓練法とクエ療法	修練の応用と観察の形態
アルファ法	1) 呼吸への注意／観察
NLP（神経言語プログラミング）	2) 呼吸への注意
オーラ	瞑想集中状態における幻影
オカルトの力についての重要な一言	沈潜の方法
敵対力	心的領域
実際の瞑想について	瞑想沈潜の方法
修練としての瞑想	瞑想沈潜の実際の過程
瞑想そのものについて	実際の方法
瞑想への順応	帰 還
瞑想と労働	身体喪失状態
祈り＝霊を求める努力	想 念
瞑想用ピラミッド	中立的思考
瞑想用ピラミッドの取扱いに関する概要	教示に従わないこと
ピラミッド使用時の瞑想の姿勢	注意についての重要な一言
ペントラ瞑想	
平和瞑想	先に進むにあたっての説明
	瞑想は意志の問題か
瞑想入門	想念集中
要 約	どのようにして異想念に気付くか
瞑想中の時間	不安や恐怖は無意味である
瞑想センター、その機能、その成果、および	自宅での瞑想
その詳細	振動と力 ―衣服を脱ぐ―
瞑 想	瞑想時の横臥
注意深さと知識の明確性	人間の身体を通り抜ける地球の磁気の流れ
	香
瞑想の教え	麻薬、アルコールおよび飲食
1) 観 察	侵入する力
2) 徹底性	
3) 抽 出	銘記すべきこと
4) 価 値	罪と徳
5) 3つの価値	志 向
1. 認 識	補 遺

49 項目の質問と回答

— 生命と人間存在の全般に関する 49 の質問に回答するための道しるべ —

44. 未来は何をもたらしますか？

Prophetien

Vorwort, Seite 8

この世の人間よ、聞くがいい。これはすでに数千年来何度も告げられたことである。君は預言をないがしろにし、冒流してきた。だが君の「今」に注意するのだ。それは大いなる転換の時代であり、君にはまだ最後のチャンスが残っている。もし君がこのチャンスを活かさなかったならば、君の子孫は地球の計算で四千年紀を少々越えるまで君を呪うだろう。この世の人間よ、君がなおも創造に背き、創造を罵るならば、二千年にわたって恐ろしい出来事が告げられる。その出来事は、君自身、君の邪説と知性のない誤った行為と行動によって責任があるのだ。

Prophetien

Donnerstag, 19. November 1981, 17.28 Uhr
(PETALE-Botschaft)

ヨーロッパは灰と炎に沈み
人間の血が砂に染み込み
第三次世界大戦が荒れ狂い
狂気の所産が邪悪な者たちによって賞賛される。
何百万という死が蔓延し
人間は容赦なくなぎ倒される。
それは戦争、すなわち第三次世界大戦
人間自身の手によって、
宗教、カルト、欲望、憎しみ、
そして権力によって呼び起こされた。
なぜならば地球人は愛を嘲るばかりだから。

Talmud Immanuel

Das 25. Kapitel, Die Prophezeiung, Vers 34-35

そのとき人類が 50 億人をはるかに越えたら、大部分は根こそぎにされて殺される。法則はそれを求めるのだ。なぜならば人間は法則に違反し、かつ遠い未来まで法則に違反し続けるだろうからだ。

44. 神秘とは何ですか？

Geisteslehre

Lehrbrief Nr. 12. Mystik

すでにミノア語には神秘という名称が「Myein」という言葉で存在していた。それは目を閉じるという意味である。カルマという概念も神秘という言葉も、時の経過の中で、いわゆる秘教徒や教派主義者や宗教関係者によって変造され、別の意味を持たされた。実は神秘という概念は、内的な自己と創造的な意識が同調し合一して啓発と進化に向かうことを意味している。神秘的な体験を引き寄せるこの高貴な道は、中庸、黙想、瞑想の修練を積むことによつ達成される。この場合、すべての外的な知覚は遮断しなければならない。

45. なぜこんなに犯罪が多いのか... 死刑は是か非か？

Folter, Todesstrafe und Überbevölkerung

犯罪者は常に、惑わされた者、そそのかされた者、病人、泥棒、そしてまた殺人者あるいは自殺者として行動する。いかなる場合でも、犯罪的行為はひとえに錯誤した、そのため病的な思考過程に基づいているからだ。たとえ彼らが犯罪を事前に入念に計画しようともである。犯罪行為を働く人間の思考は異常で非論理的なので、たとえ犯罪の裏に非常に多くの悪知恵や知性が潜んでいようとも、そこには誤導、誘惑、あるいは病気を認めることができる。しかしながら、病気や誤導や誘惑は、それが犯罪という病気であったとしても癒せるし、取り除くことができる。ある犯罪病が治る可能性の要点は、治癒と償いにある。償いとは、犯罪を犯した人間が義務としなければならないことである。しかしながら、治癒と償いとは、処罰に値する罪を犯した人間が自分の行為の非論理性や犯罪性を自覚して、健全な思考過程に乗れるようになることを意味する。そのためには、当の人間に自分の行為や病的な思考の誤りを意識させ、場合によっては医学的処置を与える。罪を犯し

た人間は教示と学習によって自分の罪と誤った思考を認識し、真実で法則に適った生命体である人間へと転身しなければならない。このような作業において、罪を犯した人間を適当な期間、社会から隔離しなければならないのは当然である。過ちを犯していない人間に認められたすべての自由が、罪を犯した人間に保証されるとしたら、およそ償いというものは成り立たなくなるであろう。

死刑を要求し、擁護し、あるいは遂行する人間、彼らは心の奥底では臆病で、不安に満ち、そのうえ欲深い。彼らの思考は病的なほど無責任で非理性的である。そのために、自己の思考能力を超える出来事について思考しようとする、彼らはたちまち怒りや不安、憤りや無力感に捕らわれてしまうのである。なぜなら、そういった出来事に責任意識をもって取り組むには、彼らの思考とその力はまだまだあまりにも原始的だからだ。

拷問と死刑は断じて罪を償わせるものではなく、原始的で理性も責任もない人間の、最も原始的で犯罪的な復讐と自己満足以外のなにものでもない。彼らの知能指数と人間性は、破廉恥な所業のために拷問を受けて、生から死へと送られることになる犯罪人よりもはるかに劣る。拷問や死刑の擁護者や遂行者が、死刑執行人であろうと、あるいは裁判官や弁護士、主婦、単純労働者や乞食であろうとも、いかなる場合でも、拷問や死刑を擁護し要求または遂行することは、際限のない原始性、愚かさ、強欲、教派主義、邪悪、残虐、無責任を、理性的および悟性的思考の無能力を、そして最も原始的で感情的な未熟を証明するものである。

46. 創造と創造主の間に区別はありますか？

Ein offenes Wort

Seite 116, Satz 839 und Seite 136, Satz 1014-1018

「私は創造である。しかし主なる神ではない。」

誰かが真の形態における創造、その実効的な力に関する知識を持つならば、人間として自分が本来何と結び付いているか知りたい、少なくとも予感した

いと思うのは自明のことである（それは人間の本質に属しているからである）。それゆえ彼は誤った「啓示」に惑わされることなく、真理について、したがってまた力そのものとしての創造について知る。なぜならば創造の实在が真理、したがって知識を証明するからである。それによってまた、ここにあるのはもはや信仰ではなく知識であることが明らかとなる。そしてこの正しい知識において創造自体が証明されるが、それは真に理解力があり、自然の論理に生きる人間に限られている。というのも人間がその实在を法則により法則の中に見出し、自らの内で霊的、意識的に成長するのであり、創造自体がその实在をまず最初に特別に証明する必要はないというのが創造の原初の法則であり、原初から定められているからである。

Seite 139, Satz 1036-1038

人間は考える能力があるのに、どうして神や神・創造主を信じ、そして唯一創造のみが存在するという知識を認識するに至らないのか。およそ創造が神とわずかでも関係があるとすれば、どのような種類のものであれ神もまた創造の被造物に過ぎないという限りにおいてである。神自身が創造であったことはかつて一度もなく、これからも神の形態のままであろう。創造の被造物である人間が創造自体と似るといようなことがどうしてあり得ようか。ただし、創造霊の小部分は別である。創造霊は本来の生命の基盤であり、不変であり、そこにおいて人間の移ろいゆく定め物理的肉体はその实在を開示する。すべてのカルト宗教は言語道断なことに、自分たちの神を創造主と名付け、そうすることによって創造自体と呼んでいる。しかしそうした呼び名の神は人間以外の何物でもないのである。

47. 預言とは何ですか、予告とは何ですか？

Prophetien

Vorwort, Seite 5

預言と予告について、なお次のことを説明する。予告とは一種の未来予想である。これは極めて豊富

なカバラ計算により非常に正確な結果を導くか、あるいは種々の形態の未来旅行によって未来を探求することによってなされる。そのため予告が、いかなる変更や回避の可能性もなく、絶対に確実であり、不可避的に的中することは明らかであろう。予告は確定した事実の首尾一貫性に基づいており、それらの起源と生成から極めて特定の作用が生じなければならない。預言はこれとは異なり、原則として警告的な機能しか持たず、適当な時期に変更を講じない場合に特定の要因から生じる帰結を示すのみである。つまり変更が講じられなければ、預言は予告となって否応無く実現する。

それゆえ熟慮すべきは、預言の表明や告知は人間の行動の価値に応じて変わり得るものであるということである。つまり預言された出来事が正しい進化によって適切に変更されたなら、それが将来的の中することは確実ではないのである。

48. 「十戒」を作ったのは誰ですか？

Dekalog

Seite 11, Satz 29-39

人間よ、君には光と生命が与えられており、それらは君を徐々に真理の道へと導く。それゆえ君はこの光と生命の中にとどまり、自分が歩んできた道からそれてはならない。それは君をますます創造へと近づける道なのだ。君は創造の普遍的な愛にはるばる導かれて、創造を不変の光のもとで認識した。それはまた創造と大いなる時間を自分で見る段階へと君を導いた。このことは君の現在の悟性にとってまだ明確に把握できないとしても、いつか私が言った通りであることがわかるだろう。それゆえ決して休むことなく、生命について日々開示されるものより遠く深く探求するのだ。というのも、そうすることによってのみ日常が君にもたらすものに満足せずに、君は真理においてより深く発展できるからである。

より多く求め、常に探求および探索するならば、創造の愛と真理の輝きを持ち、知識と創造自体の力から生まれる要素を容易に獲得できる。

それゆえ日々探求と探索に励み、創造の掟と法則を遵守するのだ。創造の掟と法則は、あらゆる方向

で観察されねばならない。創造がその法則と掟を自然に与えたとき、自然は永遠に決定された。このとき与えられた法則と掟は永遠に妥当である。なぜならば、創造の宇宙の全範囲において法則と掟の中にすべての愛が開示されているからである。それゆえ君は君の全思考と探求、探索と認識、生き方のすべてを、与えられた創造の法則と掟に適合させることによって、創造の法則と掟を微細な点まで遵守する場合のみ正しい道にいるのだ。

49. なぜ創造は崇拝に値するのですか？

OM

Kanon 2, Vers 8-20

イシュヴィシュは尊敬と崇拝に値しない。これらに値するのは創造のみだからである。

預言者は尊敬と崇拝に値しない。これらに値するのは創造のみだからである。

預言者の霊的指導者は尊敬と崇拝に値しない。これらに値するのは創造のみだからである。

人間はイシュヴィシュや預言者や預言者の霊的指導者に決して祈りを捧げてはならない。祈りに値するのは創造のみだからである。

人間はイシュヴィシュや預言者や預言者の霊的指導者を決して尊敬してはならない。尊敬に値するのは創造のみだからである。

尊敬と崇拝に値するのは創造のみである。なぜなら創造はその宇宙において最高のものであり、最も完全な完全性だからである。

しかしすべての生命を尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。地球の人類のイシュヴィシュも、預言者も、預言者の霊的指導者も尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。

すべての生命を尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。

イシュヴィシュも、預言者も、預言者の霊的指導者も尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。そこにいるのは三つの世界における地球人の王だからである。

預言者を尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。そこにいるのは真理と愛、英知と知識に包まれた地球人のための真の預言者だからである。

預言者を尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。そこにいるのは感化すべき地球人と真理の教えとの間の媒

介者、告知者、知者、慈悲者、賢者だからである。

預言者の霊的指導者を尊重し、敬意と畏敬の念を抱け。そこにいるのは知者であり、預言者の指図で無知な地球人を導く教師だからである。

創造の法則と掟を遵守せよ。これらを遵守してのみ、まことの生命と存在への進化が保証されるからである。

Kanon 3, Verse 9, 10 und 15-18

創造のみがあらゆる創出、生命、そして存在の力

である。

創造のほかに尊敬と崇拝に値するものはない。

創造は創造であり、その宇宙に存在しているすべての創造を生み出した。

創造は創造であり、すべての創造を、したがって生命、存在、天と地、銀河系と蒼穹、そしてあらゆる被造物とあらゆる生命の群を生み出した。

創造は創造であり、その宇宙に創造のほかに創造はない、そして創造はOMである。

(出典：『49 項目の質問と回答』)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ これから出る本 □

巻頭でご案内差し上げましたように、日本語版『瞑想入門』が間もなく出版されます。この作品は、数多いビリーの著作の中でもとりわけ重要な書籍として位置付けられています。ドイツ語原書からの翻訳出版では、日本語版が世界で初めてとなります。さらに、日本語への翻訳を契機として、ドイツ語原書も再校正された結果、最新のドイツ語版からの翻訳が完成しました。本書の出版にあたって、読者の皆様からの暖かい励まし、ご支援を数多くいただきました。フィグ・ヤーパン一同、厚く御礼申し上げます。

また、この機会に是非『瞑想入門』をお求めください。なお、配本は、10月下旬となる予定です。配本可能となり次第、フィグ・ヤーパンのウェブサイトにてお知らせいたしますが、ご覧いただけない方につきましては、お手数ですが、10月下旬以降にフィグ・ヤーパン事務所までお問い合わせ願います。

その他の書籍類では、4巻目のコンタクトシリーズとなる『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)』につきまして、次号にて出版のご案内を差し上げる予定です。『アラハト・アテルザータ』は、来年の出版を目指して校正作業を進めています。また、『Die Psyche (仮題：心)』の翻訳作業が開始されました。このほか、徳間書店で絶版となった『宇宙の深遠より』を再校正し、水瓶座時代出版から再販する予定で準備作業を進めています。

これからもフィグ・ヤーパンの翻訳出版活動にど

うぞご期待ください。また、一冊でも多くの書籍を翻訳出版するため、引き続きご支援くださいますよう、改めてお願い申し上げます。

□ 大阪スタディクラブ解散のお知らせ □

大阪スタディクラブは、関西地方の読者待望の勉強会として2005年4月に発足し、これまで活発に活動してきました。しかし残念ながら事情により、勉強会を解散とする連絡が主催者から届きました。

全国各地の勉強会は、読者の皆様の自由意志による活動で結成され、運営されています。勉強会の開催を希望する方、または勉強会に参加してみたい方は、お気軽にフィグ・ヤーパンまでご相談ください。

□ 著作権及び同一性保持権について □

ビリーの類まれな文章や鮮明なUFO写真等は、悪質な利用者によって無断で利用され、改ざんされたり、個人的な主張と混合されて変質させられてしまう脅威に常にさらされています。このような行為は、著作権や同一性保持権に抵触しており、国内的にも国際的にも明らかな違法行為です。違反者に対して、何故ビリーの作品の独自性が厳密に守られねばならないか、その意義を理解させることは至難の業です。フィグ・ヤーパンでは、再三の注意にもかかわらず、特にインターネットを通じてあからさまな違法行為を続ける悪質な者やそれを黙認するプロバイダー等の業者に対して、FIGUスイスと連携して対応を協議しています。

出版物のご案内

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■**瞑想入門** 新刊! (10月下旬配本予定)

価格 3,200 円 (税込 送料別 重量未定)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■地球に平和あれ

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■勝者と敗者

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ウェブサイト等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※ 15,000 円以上あるいは 3000 グラムを超える場合の郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 28 号 (無料)

発行日 2006 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2006 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.